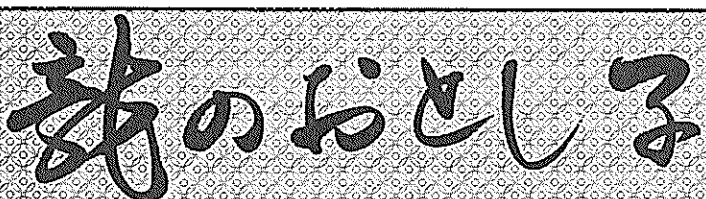




発 同志社大学法学部「藤馬会」事務局
行 (0720) 33-8635

第5号



1994年2月 (題字・藤馬龍太郎筆)

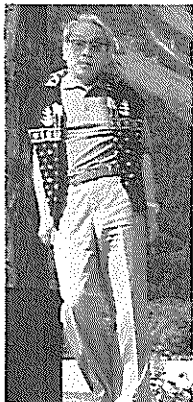
年会費(1500円)の振り込みは…
口座名: 同志社大学藤馬会 田中康博
(宇治市木幡御蔵山39-390)

富士銀行	出町支店	普通	1538207
住友銀行	伏見支店	普通	774027
京都銀行	六地藏支店	普通	856895
京都中央信用金庫	駅前支店	普通	0582105

憲法誕生の生き証人

忘れ得ぬ人々

佐藤達夫先生のこと



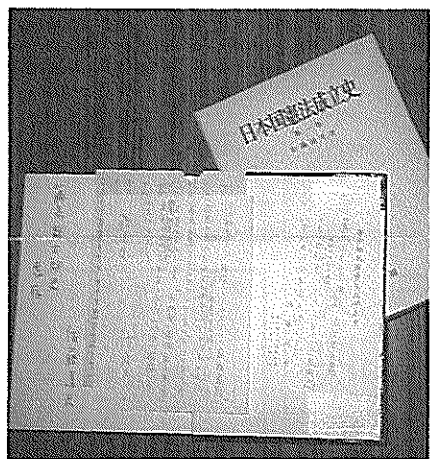
同志社大教授
藤馬 龍太郎

「龍のおとし子」第四号で遂条的に審議、検討して下さり、誠にありがとうございました。白熱した両者の議論のうちに、達夫先生について忘れがたい恩師の一人として、思いをつくまに書いてみたいと思います。

先生は知る人ぞ知る、日本国憲法の制定作業の始めから終わりまで関係する立場にあった方です。とくにマッカーサー案が日本政府に手交された直後、日本政府は極度の混乱状態に見舞われていました。そのとき、総司令部は松本清治閣務大臣を呼びつけ、マッカーサー案に賛成を求め、日本国憲法草案の作成を急がせました。そのさい、随行していたのが当時法制局第一部長であった佐藤達夫さんでした。

最初は、松本閣務大臣と総司令部民生局長ケーディス(この人物は去年の憲法記念日前後に来日し、テレビ出演や新聞紙上にも登場しましたのでご存知でしょう)との間で、マッカーサー案とその外務省訳、およびそれらを基礎とした三月二日案(いわゆる松本案)をめぐって、かなりではなく、嘘とミカケから、実や質へと変化しつつあるということではな

いでしょうか。法誕生の生き証人ともいわれました。私が、国立国会図書館の調査員となり、その当初、果ては松本閣務大臣が席を譲って帰ってしまったため、気の毒にも日本政府側の法律家として、たった一人でケーディスら総司令部側と交渉。ついに一睡もせず徹夜で憲法草案の作成を完了して翌三月五日の夕刻にマッカーサー案が日本政府に手交された直後、日本政府は極度の混乱状態に見舞われていました。そのとき、総司令部は松本清治閣務大臣を呼びつけ、マッカーサー案に賛成を求め、日本国憲法草案の作成を急がせました。そのさい、随行していたのが当時法制局第一部長であった佐藤達夫さんでした。



佐藤先生著「日本国憲法成立史」と佐藤先生から藤馬先生宛の暑中見舞

なれない時なんでしょう。今、各地で自治体を始めとして村おこし町おこし活性化ということが盛んなよう

子を見直すことで、この不安な時代を乗り越えようとして、各地で自治体を始めとして村おこし町おこし活性化ということが盛んなよう

第八回 藤馬会に寄せて

藤馬会会長

永田 和行

より本質的と言える心や、枝の時代への変化であってほしいものです。地道にそれだけの足元を見えねば

ながた かずゆき (67年度生)

変わらぬ思い 川久保重之

藤馬会も今年で八回を数え、発足時に現役四年生幹事として会場準備、名簿の整理、会則案の作成、OBの方々と連絡等に走り廻ったこともあり、毎年の盛況を見るにつけ、一人一倍感懐き深いものがあります。当時、現役幹事の負担も少しは軽くなっているとは思いますが、就職活動等の合間をぬって色々と御苦勞をかけているのではないのでしょうか。発足仕掛人の一人として心苦しいものがあるかもしれませんが、会則前文に唱われている「本ゼミナール固有の伝統」として引き継がれていってほしいと思います。

卒業以来東京で暮らして、先生が今も少なくとも一度京都へ行き、学生時代を思い起こせるのも藤馬会が持っているからこそのことです。きつと何年たってもこのお仕事を徹底しながらも、手伝させて頂いたことが私の秘かな誇りであり、忘れがたい思い出でもあります。まことに「恩無き者」といふべきでしょう。



OB通信
～北から・南から～

現役諸君へ
富島 智雄 (83年度生)

考えていますので、是非御参加いただきますよう御案内申し上げます。かわくば しげゆき (83年度生)

イギリス留学から得たもの

同志社大助手 勝山 教子



私がイングランド北部のハルという街にたどり着いたのは二年前の九月。初旬、イギリスでは早くも冬支度がはじまるころだった。八月の一カ月を語学研修のために過ごし、ロンドンとは似ても似つかぬ片田舎におりた瞬間、正直なところ物哀しいものを感じた。しかし、人間の適応力とはすばらしいものだ。友達もでき、勝手もわかって、この街の生活も悪くないと思いはじめ

とみしま ともお (70年度生)

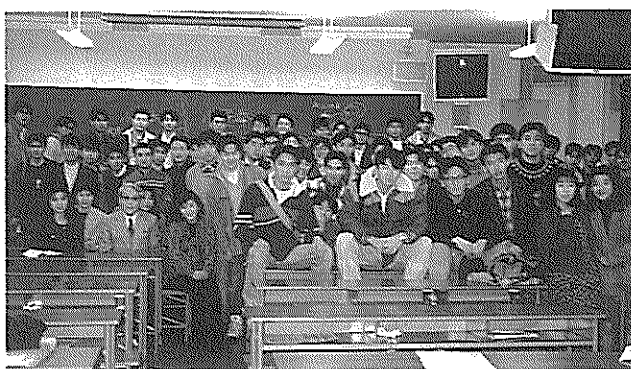
悪くないと思いはじめ、一年間の留学生生活が

不況の波乗り越え春より各界へ 今年は公務員も増加 ～四年生～

今年一年を振り返って

現役生今年度活動報告

恒例となった三、四年次合同ゼミ。今回は昨年十二月十三日に行われ活発な議論がかわされた。



買手市場下の就職状況

就職状況

今年は、昨年よりもさらに景気がおち込み、我々四回生にとっては、非常に厳しい就職活動となりました。さらに、この数年のバブル経済におけるしわ寄せが一気に押し寄せた年でした。

そのため、就職活動の開始も早く、また、より多くの企業を訪ねるため、ほとんどの学生が精力的に活動し、ゼミの授業にも出席できない程で、当初は約四分の一の十数名で授業を行なわなければならない状態が前期中ずっと続きました。希望する業界を絞り込んでいた者も、企業の募集人員が少なく、やむなく活動の幅を広げざるを得ないなど、学生にとって非常に大きな負担となりました。特に大手企業は採用を大幅に縮小し、そのためあらゆる学生が中小企業へと流れ込み数

十倍、数百倍の超買手市場に、あせる一方で、すでに内定を得た学生も、引き続き活動をするなど、毎日必死のようでした。

一般企業の就職活動が長期化する中で、公務員希望者も急増し、史上最高とも言われた人気の中、ゼミからも四名が公務員試験などに合格しました。伝統ある藤馬ゼミとしては少数ではありますが、しかし今年の厳しさからすると大健闘ではなかったかと思えます。また、大学院へも二名が合格、そしてさらには、三月の大学院の試験や、国家上級試験などを目指し、毎日がんばって試験勉強に取り組む者も多数あり、例年にない程、資格試験に対する思いがあるようです。最後に、この場をお借りしまして、就職活動で御尽力いただいた先輩方に厚くお礼申し上げます。さかもと こうじ (90年度生)

ゼミ旅行通じ 培われた団結力

岡山・松山路ゼミ旅行

ゼミ旅行

四年生の今年のゼミ旅行は十月十五日から二泊三日で列車を利用し、岡山・松

授業でも反映

三年生

シャツ一枚では少し寒いかなと感じられる九月三十日から十月二日の三日間、私達三年生は、飛騨・高山へ行きました。初日は生憎の雨でしたが、私達のバスの中は個性あふれる自己紹介やカリッソングを歌う人、和やかに進んでいき、一泊めは飛騨温泉郷の新平湯。雨の露天風呂では、龍太郎先生と標のコミュニケーション。夜は皆で集まって、ゲームなどをして、一層親密度は増しました。翌日、バ

心ひそかに

長谷川香織

当時、私達のゼミは、とても面白い集まりでした。勉強の思い出はないけれど、藤の花に昇り龍と書いて「とうりゅうかい」(先生はこのネーミングがお気に召さないようでした)のコンパはよくしたものでした。

藤馬会出席者も顔ぶれが決まってきた、四十五人もの、みなさんどうしてののでしょうか。

クラブのOB会でも同期の参加ゼロ。一番集まりの良いは昭和三十三年卒の年達だったらしい。まだ懐しむ年頃じゃないのかも。

印象的な先生の姿は、と言えは、当時は田辺転問題で学生運動が激しく、入学式も途中で学長が連れ去られて中止。テストも四年のうち二年がレポート試験でした。そういう状況で、先生の憲法の授業中に学生運動の人が来て、話を聞いた時の先生の毅然とした態度は今も覚えています。

初冬の頃、落葉の積もる校内で手に持った傘の先で落葉をトントンと歩いてい

わたなべ かずみ (90年度生)

学ぶ喜び

坂本真保

た姿。あの姿、先生とて似合っていました。仕事では、総務、経理の担当で、商法、税法に悩まされています。法学部卒なので法律をよく知っていると思われて困ったけれど、憲法専攻ですと、かわした。PKOの時は質問がとんだらどうしようかとドキドキしました。

一番気をつかうのは、決算、株主総会の準備。終われば、ほっと気がぬける。

最後に、本当は心ひそかにいいんだけれど、私は先生のファンです。せがわ かおり (79年度生)

私達が切ればかりの笑顔があった。それは在学中に研究室に押しかけ、愚問ばかり発した昔の私に微笑ま

格した私は、我が大学主催の合格祝賀会出席のため秋深まる十一月京都に四年半

深まる十一月京都に四年半

深まる十一月京都に四年半

深まる十一月京都に四年半

深まる十一月京都に四年半

深まる十一月京都に四年半

深まる十一月京都に四年半

深まる十一月京都に四年半

深まる十一月京都に四年半



OB通信

北から・南から

最後に、本当は心ひそかにいいんだけれど、私は先生のファンです。せがわ かおり (79年度生)

私達が切ればかりの笑顔があった。それは在学中に研究室に押しかけ、愚問ばかり発した昔の私に微笑ま

格した私は、我が大学主催の合格祝賀会出席のため秋深まる十一月京都に四年半

深まる十一月京都に四年半

深まる十一月京都に四年半

深まる十一月京都に四年半

深まる十一月京都に四年半

深まる十一月京都に四年半

深まる十一月京都に四年半

深まる十一月京都に四年半



今年もさまざまな思い出を刻んだゼミ旅行 (上) 3年、高山にて (下) 4年、岡山にて

編集後記

～事務局より～

藤馬会の事務局の仕事として、は総会の企画・運営、会報の発行そして会員名簿の作成・管理等が主なものです。

会報の編集等はこれまで専門家にお願いして

おりました。しかし今回より原稿以来から編集・発行まですべて現役生の手に

「手作り」の会報を作成することにいたしました。

これからはより多くの会員の皆様の声を取り入れた会報を作っていきたいと思

いますので感想やご意見等を事務局までいただけたら

嬉しく思います。

藤馬会も今回で第八回を迎えます。これもひとえに

藤馬教授と参加者そして歴代役員の方々の協力がなければここまで回を重ねること

とはできなかったと思います。今後ともまわりのある

そして息の長い同窓会にさらに成長することを目標に

頑張っていきたいと思いま

すので皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

たなか やすひろ (87年度生)

たなか やすひろ (87年度生)

たなか やすひろ (87年度生)

たなか やすひろ (87年度生)

たなか やすひろ (87年度生)

たなか やすひろ (87年度生)

たなか やすひろ (87年度生)

たなか やすひろ (87年度生)

たなか やすひろ (87年度生)

たなか やすひろ (87年度生)

たなか やすひろ (87年度生)